

育成年代のスポーツ合宿地の選考における意思決定プロセスと選定要素に関する研究 ジュニア・ジュニアユースのサッカークラブチームを対象に

スポーツクラブマネジメントコース

5023A320-3 松尾 康宏

研究指導教員：間野 義之 教授

1. はじめに

日本では観光を通じた国内外との交流人口の拡大が成長戦略の柱、地域活性化の切り札であるとして、「持続可能な観光」、「消費額拡大」及び「地方誘客促進」をキーワードに、これまで以上に質の向上を重視した観光へと転換していくことが必要であるとされている。その中でも地域資源とスポーツを掛け合わせた観光を楽しむスポーツツーリズムの推進を通じた国内旅行需要の喚起や、訪日外国人旅行者の訪日促進が重要となっており、多くの自治体が誘致活動に取り組んでいる。本研究ではスポーツツーリズムのうち日本の伝統的な形態とされるスポーツ合宿に着目した。

近年、スポーツ合宿地として発展してきた石川県七尾市では、小・中学生などの育成年代の利用者が多い傾向がある。また、サッカーの育成年代における指導では、「オフ・ザ・ピッチ」で選手に多くのことを身につけさせなくてはならないと指摘されている。これらのことから、競技力強化が主目的であるスポーツ合宿において、育成年代では新たな形態が見られるのではないかという仮説をたてた。

育成年代のスポーツ合宿地選考における意思決定プロセスおよび選定要素を明らかにすることは、スポーツ合宿誘致を推進する自治体や地域スポーツコミッションにとって有益になると考えられる。

2. 先行研究の検討

スポーツ合宿で実施される内容については、「トレーニング型」「練習試合型」「スポーツ大会型」の3つに分類される。また、スポーツ合宿誘致にあたっては一般のツーリズムと比較すると消費者行動に特有の要因があることが示唆されており、押見らはスポーツ合宿の特殊性を反映した意思決定プロセスである DAAR モデルを提唱している。また、選定要素に纏わる先行研究では高校・大学・実業団・トップチーム・ナショナルチームなどを対象とした研究があるが、育成年代を対象とした研究がほとんど見られない。

3. 研究目的

本研究では、育成年代のスポーツ合宿地選考における意思決定プロセスおよび選定要素を明らかにすることを目的とする。先行研究を踏まえ、これらを明らかにするために、2つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1：育成年代のスポーツ合宿地選考はどのような意思決定プロセスで行われたのか？

RQ2：育成年代のスポーツ合宿地の選定要素にはどのようなものがあるのか？

なお、本研究では、ジュニア（小学生）・ジュニアユース（中学生）の両方かまたはいずれかのカテゴリーを有するサッカーのクラブ

チームを事例に検証を行う。

4. 研究方法

豊かな記述に基づく質的アプローチが有効と考え、半構造化インタビュー手法によるオンライン調査を行った。インタビュー対象者はジュニア・ジュニアユースのサッカークラブチームの代表者、監督およびコーチ 12 名とした。データの客観性と信頼性を向上させるために録画したインタビュー内容を忠実に書き起こした逐語録を作成した。

RQ 1 については、押見らのスポーツ合宿の意思決定プロセスである DAAR モデルを参考に整理した。

RQ 2 については、インタビュー結果から得られた「スポーツ合宿地の必要な選定要素」の回答について、整理した。

5. 結果・考察

育成年代のスポーツ合宿地選考における意思決定プロセスについては、インタビュー結果を踏まえて、押見らの DAAR モデルに「探索 (Search)」を追加した DASAR モデルを提示した。育成年代では、生活圏から離れ、非日常体験が得られるスポーツ合宿において、「思い出に残る」機会としたいと考えるクラブチームが多く、合宿前に「思い出に残る」コト・モノを「探索 (Search)」し、観光スポットへの立ち寄りや特産物の飲食、川遊びなどアクティビティが可能な場所などを見つけ、可能な限り合宿カリキュラムとして取り入れていることも明らかになった。

次に、スポーツ合宿の選定要素について、大学院生 3 名とのトライアンギュレーショ

ンの結果、「繋がり」「アクセス」「練習環境」「宿泊施設」「費用」「観光／交流」の 6 つに分類された。本研究では「繋がり」、「アクセス面」が選定要素として重要であることが明らかになった。また、他の世代とは異なる選定要素として、観光／交流が挙げられた。

6. 結論

本研究では育成年代のスポーツ合宿地選考における意思決定プロセスおよび選定要素を明らかにすることを目的であった。前述の結果を踏まえて、本研究では以下の 2 点が明らかになった。

1 つ目は育成年代のスポーツ合宿では、観光を取り入れた形態がでてきている点である。スポーツ合宿は、Chalip が指摘するように主目的から派生する観光行動は発生しにくい旅行形態の 1 つであるとされていたが、育成年代のスポーツ合宿においては、観光も取り入れていることが明らかになった。

2 つ目は「つながり」を持つ人材の重要性である。スポーツ合宿については、仮に「アクセス」「練習環境」「宿泊施設」等の要素が満たしていたとしても、「繋がり」がなければ、合宿地に選定される可能性は低いといえる。そこでホスト側は出身校等で幅広く「つながり」を持つ「地元の顔」のような人材とともに合宿誘致を仕掛けていくことが重要であるといえる。またゲスト側との「つながり」を構築していける運営スタッフなどの育成も必要であると考ええる。

スポーツ合宿を誘致する自治体および地域スポーツコミッションは、観光要素を取り入れた企画立案や、ホスト側として「つながり」を構築できる人材とともに誘致を推進することが必要であると考ええる。